

急性胆嚢炎手術症例の治療成績の検討

研究の概要：

急性胆嚢炎に対しては、緊急での早期手術が推奨されており、当院でも行っておりますが、手術後は約 10%程度に創部の感染や腹腔内の膿瘍など、手術に関連した合併症が起こるとされています。どのような患者さんが術後合併症を発症しているのか検討し、急性胆嚢炎手術に対する術後の治療について、改善を図っていく必要があります。

今回、当院で急性胆嚢炎に対して手術治療を実施した患者さんの術後経過を評価し、術後合併症発症に影響する因子について検討することを目的としています。

研究対象：

2009年4月から2019年8月までに、相澤病院にて急性胆嚢炎に対して緊急手術を施行した患者さんを対象とします。

研究の意義：

急性胆嚢炎術後の合併症発症に関わる因子を同定できれば、合併症予防のための、より適切な術後管理を実施することができると考えられます。

研究の目的：

本研究は、急性胆嚢炎に対して緊急手術を施行した患者さんを対象として検討を行い、術後合併症発症に影響するリスク因子について検討することを目的としています。

研究の方法および内容：

相澤病院の診療録データベースを利用して、診療録より必要な情報(患者背景、臨床経過、手術所見、術後経過、切除標本の病理組織学的所見)を収集し、統計学的な解析を行います。情報収集の作業に当たっては医師がこれを行います。

個人情報に関する配慮：

人体から採取された試料ではなく、診療録を主とした既存資料を研究に用います。閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は本研究専用で別途割り振られた研究番号を使って管理し、個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

研究代表者（本研究全体の責任者）：

〒390-8510 長野県松本市本庄 2-5-1

社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 外科センター 西田保則

TEL 0263-33-8600 / FAX 0263-32-6763